

ここ
大事

地域協議会設立にむけて

～一人を多機関で助けることから始める～

医療法人おくら会 芸西病院
公文一也

ノウ フク

農業と福祉がつながって、日本を元気に！



各機関の連携は個別ケース対応から始まる

○ケースはどの機関から相談が来ても地域
で生活する市民！

みんな困り
ごとの輪の
中で仕事し
ている！

困りごととは何か？

包括

警察

消防

市町村

・刑務所
・保護観察所

社協

ケアマネ

・弁護士・検事
・司法書士

困りごとの輪
(個別の事例)

就労・相談支援事業所

学校

福祉保健所

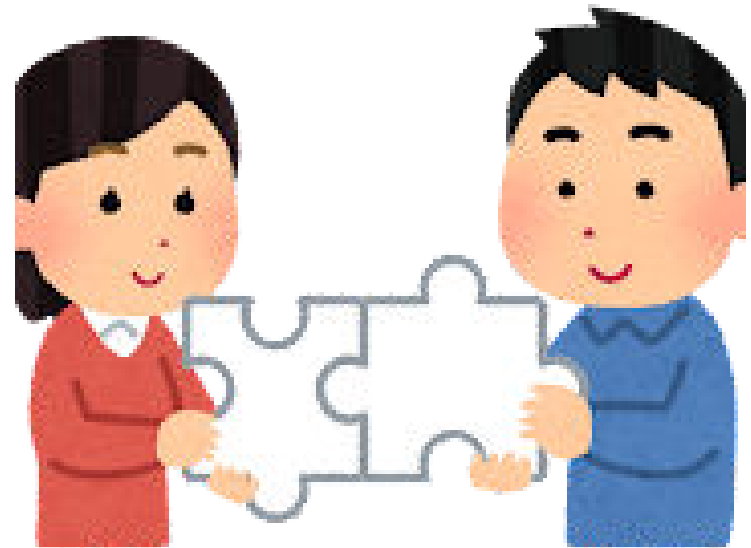
病院

民生委員

だから連携が必要

支援機関のパズル

支援の押しつけ合い ・ 助け合い



当事者も支援機関もしあわせになる

一機関では担えない問題ばかり

困ったな～
死にたいな



- ・ 借金
- ・ SNS
- ・ 精神問題
- ・ 身体問題
- ・ 住居
- ・ 人間関係
- ・ 将来への不安

色々な機関と連携
して、地域の資源
をフル活用すれば
なんとかなる！



連携とは

会議をすることではない！
顔を知ることではない！

相手の役割
を知る！
顔の見える
関係！

他機関にま
かすこと
もない！

相手を思い
やること

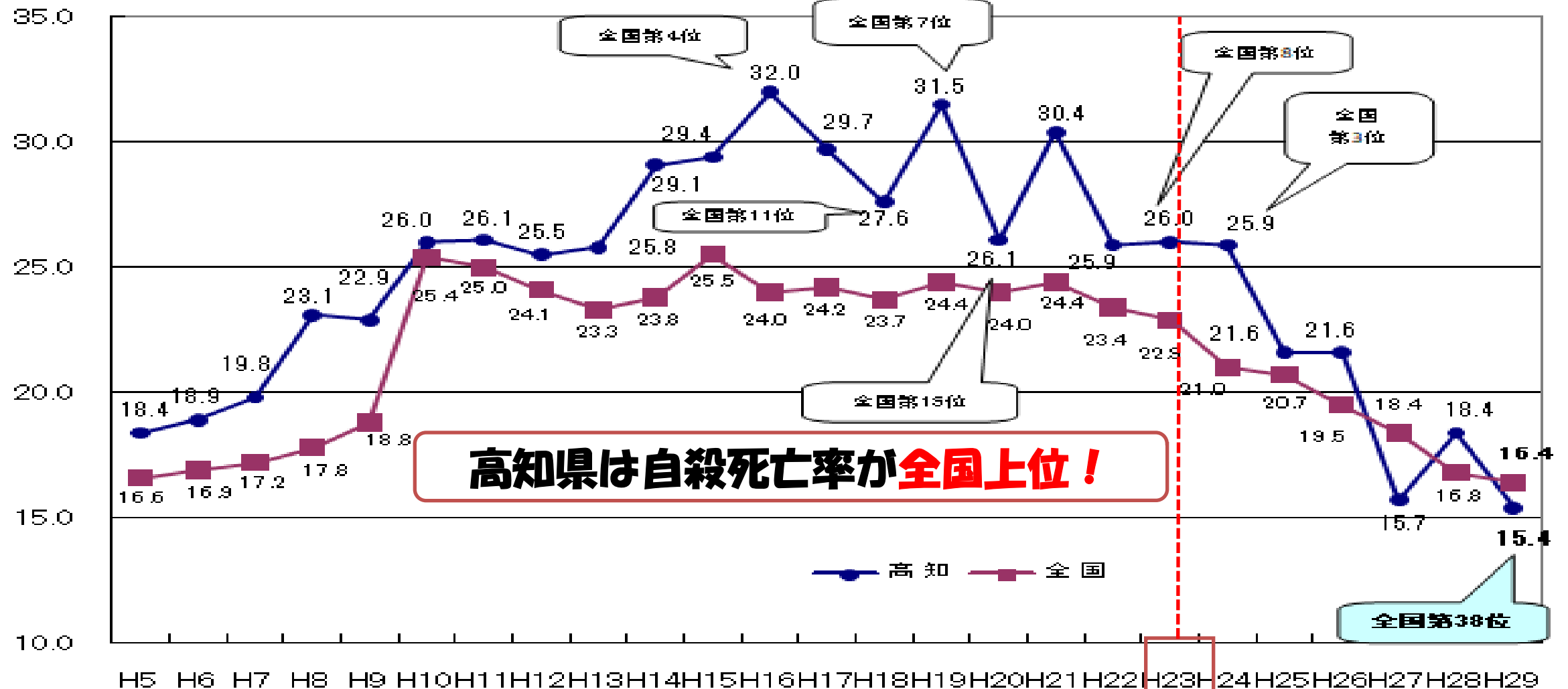


すごいネットワークができる！

農福連携の始まりは自殺予防の取組から始まった！



自殺死亡率の推移（人口10万人あたり） 課題は自殺者を減らすこと！



H23年 安芸県域の自殺率は県内で最も高い！

連携命

安芸地域のお仕事図

農福連携は自殺予防の取組の副産物である！

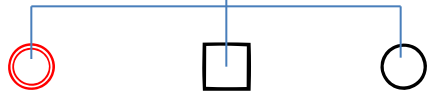


★ひとりのひきこもりの男性N君との出会い

(N)

安芸市内在住。ひきこもり歴約10年

■—○ (母親は精神科に長期入院中)



3人兄弟の長男で3人暮らし。

次男、長女は就労している。

本人は、中学校時にいじめにあって不登校となり、高校は定時性を卒業する。

就労経験はあるが続かない。30歳くらいからひきこもるようになった。

★趣味は畑での野菜作り。

仕事をしない兄であり、兄弟のお金や食べ物を盗るので仲が非常に悪かった。

しだいに、兄弟がお金や食べ物の支援をしなくなり生活に困窮していき、社会福祉協議会に相談に行った。

社会福祉協議会から安芸福祉保健所に相談があり、安芸市の保健師と同伴訪問をする事になった。

訪問時、本人はやせ細っており服装もみだれていた。会話は一方的に好きな事を話しするので会話というよりは彼の話聞くだけだった。※3者連携



ハウス拡大するために紹介した土地がまさかの(°o°): 責任を取って石ころの荒地と戦う公文！ **その時救世主が...**

1

クワから



2

ショベルカー



3

石ころの山



事例①H26年5月 安芸地域の農福連携が始まる

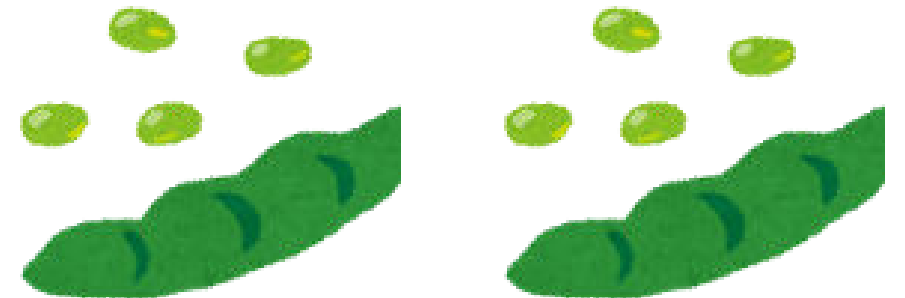
30代男性 10年ひきこもり 生活困窮



生活困窮の彼との出会い
所持金0円

道に生えているカラスのエンドウ
を食べて飢えをしのいでいた。
安芸市の保健師、社協の職員と農
園へつないだ

これが農福連携の始まりだった！



N君が農家で成功した理由

- 作業がN君の特性に合った
- 支援者も一緒に作業をした
- 雇用主がN君の特性を必死で理解した
- 雇用主との連絡体制の確立
- なんといっても賃金が貰えた



N君のうわさが地域で広がる

袋詰めの方
統合失調症



集出荷場
労働時間の短縮



ハウスの
スパークス
20年ひきこも
り



地域移行・定着
長期入院解消



ハウスの
規模拡大
3年ひきこもり



楽しい宴会
みんなで交流



雇用主も幸せ



H29 農福の芽はどんどん大きくなり1機関 で育てることが困難になりました

農業

連携

福祉



H29年～組織を超えた農福連携



農福連携検討会を開催

(メンバー)

- 安芸市農林課・福祉事務所
- JA高知県安芸地区
- 安芸農業振興センター
- 安芸福祉保健所

(検討内容)

- 情報共有
- 課題についての検討



就労先の確保や定着支援には、**官民の組織を超えた連携が必要**であり、**それこそが真の農福連携**であると気が付いた！

平成29年就労者増加 協力農家11戸 就労者16人※組織間連携する必要となる！



ついに地域協議会が立ち上がる 平成30年5月安芸市農福連携研究会を設立

★この研究会は農福連携を推進するために
地域に生きづらさの理解を拡げていくための会

★参加機関：JA高知県安芸地区（会長）、安芸市農林課（事務局）、安芸市福祉事務所
安芸市地域包括支援センター、高知県安芸農業振興センター、
高知県安芸福祉保健所、障害者就業・生活支援センター、
地域若者サポートステーション、県立山田特別支援学校田野分校
(毎月1回開催)

【検討事項】

- 各機関の情報共有 ○就労へのマッチング
- 生きづらさや障害の理解の勉強会を開催
- 農福連携の普及・啓発事業の開催

【生きづらさ理解の研修会等の開催】

- ・H30年8月～はじめよう農福連携～講座
- ・R1年6月～農福連携高知県サミットinあき
- ・集荷場や各種農業の体験を実施（6名採用）
- ・R1年10月、JAが就労サポーターを雇用して障害者の就労定着強化を進める



R7年4月現在 協力農家34戸 就労者107名

就労定着支援の流れ

地域協議会(就労支援専門部会や農福連携研究会)の支援機関に相談が来る

↓必要な支援を整理する(住居、経済面、家族関係等)

地域協議会でマッチングケース会議を実施(月1回)

+ 連携先の関係機関は随時就労のマッチングを行う

↓お仕事体験10日間(就労体験拠点設置事業)を活用

+ JAの農業就労サポーターを活用

支援機関とサポーターと一緒に定着支援を開始

↓ ※サポーターは毎日同行支援(支援機関との情報共有は必ず行う)

就労定着

※定着後もサポーターと支援機関は農家を訪問して農家と当事者のフォローを行う



R7年4月現在

生きづらさ抱える方を支える農家や出荷場等

※働き方は違うがみんな定着している！

①東岡農園（4名）

③小松農園（2名）

⑤仙頭ファーム（1名）

⑦小松良二農園（2名）

⑨山崎農園（1名）

⑪輝農園（3名）

⑬長野農園（4名）

⑮住原農園

⑰山崎隆農園（1名）

⑲千光士農園（2名）

・土佐備長炭一（2名）

・JA高知県あき地区（1名）

・公文農園（1名）

・曾我牧場（3名）

②北村農園（3名）

④岡林農園（2名）

⑥岡林トシ農園

⑧シーベジタブル（3名）

⑩川内農園（1名）

⑫高知国沢農園（1名）

⑭安田出荷場（1名）

⑯安芸出荷場（5名）

⑰赤野出荷場（2名）

⑲芸西村出荷場（1名）

・こうち絆ファーム（55名）

・福田園芸

・松村農園

・穴内出荷場（1名）※受入可能農

・久市農園

・西岡農園

・公文農園（1名）

・仙頭農園

・小原農園

・小松弘幸（ミヨウガ）



計107名

安芸版農・林・水・商・法・仏・福連携ケアシステム

誰もが安心して自分らしく暮らせるまち=地域づくり



《なんとかしますき つないでください》



《R7.9. ノウフクコンソーシアム西日本設立》



■ 設立の目的

1. 西日本における農福連携のネットワーク化と協働の推進
2. 地域資源やノウハウの共有による実践の質の向上
3. 関係機関・行政との連携による制度化・政策提言
4. 働きづらさ・生きづらさを抱えるすべての人の居場所と役割の創出

《R7.9/ウフクコンソーシアム西日本設立》



会長	公文一也	芸西病院リハビリテーション部／副部長 芸西病院地域生活支援室／室長
副会長	奥野靖夫	特非)熊本福祉会／理事長 熊本県農福連携協議会／会長
副会長	新免修	社会医療法人みどり会さんさんグリーン／施設長
理事	藤戸小百合	農福連携コーディネーター
理事	石神裕美子	特非)たかつき／事業本部長
理事	堀川佳恵	株)CoCoRoファーム／代表取締役
理事／事務局長	天野雄一郎	大隅半島ノウフクコンソーシアム／理事兼事務局長 特非)たがやす／理事 ノウフクコンソーシアム東日本／顧問
顧問弁護士	野口敏彦	弁護士／弁護士法人龍馬あおやま事務所
最高顧問	濱田健司	東海大学文理融合学部経営学科／教授
顧問	國松繁樹	(一社)日本基金／代表理事
顧問	小淵久徳	社福)ゆずりは会／理事 ノウフクコンソーシアム東日本／副会長